生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan
ニューズレター

第２号
2001. 2. 20

CONTENTS

巨樹・巨木林フォローアップ調査について ---------- 2
ＪＩＣＡ生物多様性情報システム研修 ---------- 3
第３回自然系調査研究機関連絡会議（ＮＯＲＮＡＣ）開催 ---------- 4
センターの動き，人の動き、来館者 ---------- 5
生物多様性情報システム（Ｊ－ＩＢＩＳ）のマーク・ロゴ決定 ---------- 5
「身近な林調査」実施中 ---------- 6

イラスト／「日本 － いきもの宝島乃景」（p４ 関連記事）

2001年１月６日から環境省自然環境局生物多様性センターとなりました。今後ともよろしくお願いいたします。

巨樹・巨木林フォローアップ調査について

当センターでは、第6回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）の一環として平成11年度から平成12年度にかけて「巨樹・巨木林フォローアップ調査」を実施しています。

1. 調査目的

この調査は、国内の巨木の現況を把握し、自然環境保全のための基礎資料を得ることを目的としています。昭和63年度に1回目の調査（第4回自然環境保全基礎調査巨樹・巨木林調査）を実施しており、今回は前回調査のフォローアップとして2回目の調査となります。

2. 調査方法

（1）実施方法

調査は、全国の市町村役場及び全国巨樹・巨木林の会（会長：伊藤秀三長崎大学名誉教授）の会員の方々に調査票と調査マニュアルを送付して、調査協力を依頼しました。

（2）調査対象

調査は、原則として、地上から約1.3mの高さでの幹周（囲）が3m以上の樹木を対象に実施しました。しかし、幹周が3m以上に生長しにくい樹種（ツバキ、マユミ等）については、幹周1m若しくは2m以上の樹木についても調査対象としました。

吾北（こほく）村（高知県）のヤブツバキ
地元ではシャクジョウカタシと呼ばれ愛されている。
県指定天然記念物（写真提供：吾北村）

（3）調査内容及び調査項目

調査内容は、次の二つとなります。

①追跡調査　前回の調査で確認された巨木を対象に実施。
調査項目：健全度（枯死情報含む）、幹周、巨木の所在地（住所）等

②新規調査　前回の調査以降新たに確認された巨木を対象に実施。
調査項目：①の項目に加え、樹種、位置、所有者、独特の名称、保護制度、信仰・故事伝承の有無など

3. 中間発表

調査結果の中間発表を平成12年10月27日（金）に第13回巨木を語ろう全国フォーラム（開催地：長崎県厳原町）で行いました。

平成12年9月30日現在で1，419市町村（調査協力依頼市町村数：3，252、回答率44%）と全国巨樹・巨木林の会会員などの一般の方約50名から回答があり、前回の調査で確認された55，798本の内、約20，000本が再確認され、約8，850本が新たに確認されました。しかしながら、再確認された巨木の中には、枯死したという回答も含まれていました。

特徴的な調査結果例として、次の例が挙げられました。

（1）山間地域、島嶼地域から多数の報告が寄せられました。
（例）和賀山塊（秋田県側）、最上地域（山形県）、一宇村（徳島県）、御蔵島村（東京都）、対馬（長崎県）、二戸市（岩手県）など
（2）今回初めて巨木が確認された市町村数　　52市町村
（3）新発見の巨木本数が多かった市町村ベスト3
八日市場市（千葉県、211本）、世田谷区（208本）、熊本市（198本）
（4）幹周3m以上に生長しにくい樹種（ツバキ、マユミなど）についても幹周3m以上のものを含め多数の報告がありました。

4. 調査結果の公表

調査の最終結果は、中間発表後に寄せられたデータも含め平成13年春を目途に報告書にとりまとめ、調査協力者に配布するとともに、生物多様性センターWebページにも掲載し、公開する予定です。

（自然保護専門員　堀内　直）

JICA 生物多様性情報システム研修

生物多様性センターでは、平成10年度より、国際協力事業団（ＪＩＣＡ）の「生物多様性情報システム研修」の研修生を受け入れています。平成12年度は10月4日から11月24日まで、11ヶ国から12名の研修生がセンター等で実習などを行いました。前半は富士山周辺及び沖縄西表島での生物多様性情報収集実習を、後半は当センターにおいてデータベースやインターネットに関する実習を行いました。

上：富士山五合目にて　研修生の
Maria Ostilia de Oliverira MARCHIORI（ブラジル）さん
撮影

下：研修風景

第３回
自然系調査研究機関連絡会議（ＮＯＲＮＡＣ）開催

去る平成12年11月16、17日の２日間、長野市の長野県自然保護研究所において、第３回自然系調査研究機関連絡会議（ＮＯＲＮＡＣ）が開催されました。ＮＯＲＮＡＣとは、自然環境、野生生物保護等を主な調査研究の対象とする機関相互の情報交換、ネットワーク強化を図るための集いで、現在全国13の機関がメンバーになっています。当日は連絡会議メンバーや都道府県関係者のほか、学生や一般市民も参加し、会場はほぼ満席の盛況となりました。

１日目は「生物多様性保全のための政策と科学」を共通のテーマにパネルディスカッションが行われ、４人のパネラーからそれぞれ発表があったあと、会場からも質問が出て、活発な議論が行われました。２日目はメンバー機関の調査研究・活動事例発表会が行われ、各機関における取組みや、研究成果などが発表されました。

ＮＯＲＮＡＣ構成機関
（平成13年２月現在）
国立環境研究所
生物多様性センター
北海道環境科学研究センター
埼玉県環境科学国際センター
神奈川県自然環境保全センター
石川県白山自然保護センター
石川県のと海洋ふれあいセンター
福井県自然保護センター
山梨県環境科学研究所
長野県自然保護研究所
滋賀県琵琶湖研究所
岡山県自然保護センター
福岡県保健環境研究所

・日程と発表者

１１月１６日（木）：パネルディスカッション

コーディネーター
椿　宜高
（国立環境研究所上席研究官）
パネラー
鷲谷いづみ（東京大学教授）
神山和夫（（財）日本野鳥の会国際センター研究員）
前河正昭（長野県自然保護研究所技師）
間野　勉（北海道環境科学研究センター野生動物科長

１１月１７日（金）：調査研究・活動事例発表会
発表者
玉置雅紀（国立環境研究所）
野上達也（石川県白山自然保護センター）
宮崎忠国（山梨県環境科学研究所）
東　善広（滋賀県琵琶湖研究所）
清水英幸（国立環境研究所）
松村俊幸（福井県自然保護センター）
富樫　均（長野県自然保護研究所）
山本佳世子（滋賀県琵琶湖研究所）
富沢昌章（北海道環境科学研究センター）

表紙イラスト／「日本 － いきもの宝島乃景」について

北海道から南西諸島、海辺から山岳地帯に至るまで日本の多様な自然とそこに生きるさまざまな動植物たちを１枚の絵に表現したもので、埼玉県在住のイラストレーター永田信行氏によって描かれました。

このイラストは、生物多様性センターのホームページ、ポスター、パンフレットなどに使用されています。

センターの動き　2000年9月～2001年1月

9月18日　植生調査東北・関東ブロック会議（於：盛岡）　以後ブロック毎に順次開催
10月２日　自然環境保全基礎調査検討会　哺乳類Ⅱ分科会（於：環境庁別館804会議室）
４日～　ＪＩＣＡ生物多様性情報システム研修（11月24日まで）
５日　巨木検討委員会（於：東京・東海大学交友会館）
16日　自然環境保全基礎調査検討会　身近な生きもの分科会（於：東京・法曹会館）
16日　巨木保全方策検討委員会（於：東京・財団法人自然環境研究センター）
27日　巨樹・巨木林フォローアップ調査中間発表
（巨木を語ろう全国フォーラムにて：長崎県厳原町）
11月16～17日　第３回自然系調査研究機関連絡会議（ＮＯＲＮＡＣ）（於：長野県自然保護研究所）
12月１日　巨木保全方策検討委員会（於：東京・財団法人自然環境研究センター）
10日　身近な生きもの調査　秋冬調査編　調査票返送締め切り
平成13(2001)年
１月６日　環境省発足
11日　身近な生きもの調査
春夏調査編　募集開始
30～　ＧＩＳ講習会
２月１日

2001.1.29

人の動き　2001年1月

〈転出〉　専門調査官　伊藤　勇三
（山陰地区自然保護事務所鳥取支所野生生物科長へ）

〈転入〉　調査科　曽我部倫子（そがべともこ）（中部地区自然保護事務所から）

来館者　2000年9月～2001年1月

インドネシア共和国森林農園省自然保護情報課長
Agoes Sriyant 氏他１名（JICA カウンターパート研修）
香港政庁漁農自然護理署郊野公園策劃主任
郭　碧雲　氏（政府派遣研修）
マレーシア森林研究所生物多様性研究部長 N. Manokaran　氏
河口湖町教育委員会日韓青少年指導者交流
日中韓環境教育ワークショップ関係者
滋賀県議会琵琶湖環境農政水産委員会
JICA 地域特設研修：野生生物保護管理（アフリカ地域）
UNESCO MAB ロシア国内委員会
ほか、大勢の方にお越しいただきました。ありがとうございました。

生物多様性情報システム（Ｊ－ＩＢＩＳ）のマーク・ロゴ決定

我が国の自然環境や生物多様性の総合的データベースとして生物多様性センターが運営している**生物多様性情報システム（Ｊ－ＩＢＩＳ）**のマーク・ロゴが決定しました。web その他で今後広く使用していきますのでよろしくお願いいたします。

J-IBIS
生物多様性情報システム
Japan Integrated Biodiversity Information System

身近な生きもの調査 2000

「身近な林調査」実施中

身近な生きもの調査 2001

秋冬調査　速報

2000年度から開始しました、「秋冬調査」には、約２万人の参加がありました。皆様のご協力により多数の申し込みがありましたことを、報告すると共に改めて感謝申し上げます。

参加者の報告をそのまま集計した仮集計（12月12日以前到着分）では、ドングリはコナラ、クヌギ、アラカシの順に高い出現率でした。
赤い実の発見率は86%、赤い実の出現平均種数は2.86でした。

春夏調査　開始

2001年３月から「春夏調査」が始まります。

・春の調査　　調査期間は３～５月
「タンポポ」と「黄色い花」
「タンポポ」は花と実の実物を集め、「黄色い花」は写真を撮って下さい。

・夏の調査　　調査期間は７～８月
「セミのぬけがら」と「夏の虫」
「セミのぬけがら」は実物を集め、「夏の虫」は写真を撮って下さい。

春夏調査参加者募集　これまでの参加者の方々に加えて新たに参加者を募集します。
どなたでも参加できる調査なので、身近な生きもの調査にまだ参加されていない方は是非この機会にお申し込み下さい。また、関心をお持ちのお知り合いがいらっしゃる方はご紹介下さい。申し込み締め切りは３月31日です。
＊既に秋冬調査に参加された方は申し込みの必要はありません。

お申し込み方法
まずは、案内パンフレットをご覧になってから、案内パンフレットに付属の申し込みカードまたは、web からダウンロードした申し込みカードをお送りください。お申し込みいただいた方には２月下旬に調査方法を記した調査のてびきをお送りします。

詳しい内容についてのお問い合わせ及び案内パンフレット（web でも公開しています）の入手については「身近な生きもの調査係」まで、ご連絡下さい。

Web　ページ　http://www.biodic.go.jp/mijika/index.html
E-mail　　mijika@biodic.go.jp

1月に入り大雪に見舞われ、雪かきに追われました。しばらく寒さの続くこのごろ、皆様も風邪など引かぬようお気をつけください。（ま）

発行：環境省自然環境局生物多様性センター
〒403-0005 山梨県富士吉田市上吉田剣丸尾5597-1
電話：0555-72-6031　FAX：0555-72-6032
URL　http://www.biodic.go.jp/
e-mail　newsman@biodic.go.jp

このニューズレターは再生紙を使用しています。

R100 この会報は古紙100%の再生紙を使用しています。
PRINTED WITH SOY INK この印刷物は地球にやさしい植物性大豆油インキを使用しています。